

未来への祈り、核なき世界を目指して

下吹越 直紀

真の平和を望む各国のリーダーへ

1945年8月6日、広島。そして8月9日、長崎。これら二つの日は人類史上最も悲劇的な出来事として記憶されています。原子爆弾の投下によって数十万人の命が奪われ、その後も数十年にわたり多くの人々が放射線の影響に苦しみ続けました。広島と長崎の被爆者たちは、計り知れない苦痛と悲しみを経験し、その傷は今もなお癒えることはありません。この過去の惨劇を忘れることなく、核兵器がもたらす破壊と苦痛を再び繰り返さないために、核なき未来を目指すことがいかに重要かを再認識する必要があります。

被爆者たちの生々しい体験談を耳にしたことがあるでしょうか。一瞬にして広がる閃光、その後の爆風によって全てが消し飛び、燃え上がる街とともに多くの命が奪われました。生き残った人々は、皮膚が焼け爛れ、放射線による苦痛に耐えながら、家族や友人を探し続けました。焼けただれた手で亡くなった家族の遺体を抱きしめ、声を上げて泣く姿を想像してください。その苦しみと絶望は、言葉では言い尽くせないものです。

現在、世界には約13,000発の核弾頭が存在すると言われています。核兵器の存在は冷戦期以来、核抑止力としての役割を果たしてきました。核保有国同士の直接的な戦争は避けられ、その恐怖が一種の平和を保ってきたとの見方もあります。しかし、その裏側には常に「誤解」や「誤算」の危険性が潜んでおり、一瞬の判断ミスが全人類を滅ぼす可能性を秘めています。核兵器に依存することは、結局のところ不安定な平和に過ぎず、真の安全保障とは言えません。

核兵器のない未来はどのようなものか考えてみましょう。核兵器が廃絶された世界では、国家間の緊張は必然的に緩和され、国際関係は対話と協力を基盤とする新たな時代に入ります。軍事力に依存しない安全保障の枠組みが構築され、人類は経済的、社会的発展に向けた新たなエネルギーを注ぎ込むことができるでしょう。環境問題や貧困、感染症といった地球規模の課題に対しても、共同で取り組む余裕が生まれるはずです。

核なき未来を実現するためには、現実的なステップとその過程での課題を認識しなければなりません。まず、核保有国が核兵器の削減を真摯に進めることが重要です。これには透明性の確保、検証可能な削減プロセスの導入、そして信頼の醸成措置が不可欠です。また、非核保有国も核拡散防止条約（NPT）を堅持し、核兵器の開発や入手を断念する姿勢を示す必要があります。そして、国際社会は核

廃絶に向けた政治的意志を強化し、核兵器禁止条約（TPNW）の批准を促進すべきです。さらに、軍縮と並行して、地域紛争の解決や平和構築活動を強化し、核兵器が必要とされない世界を実現するための基盤を作り上げることが求められます。核なき未来を実現するためには、あなたたち核保有国のリーダーの役割も極めて重要です。核兵器の削減と廃絶は、一国家だけで成し遂げられるものではありません。国際的な協力と信頼関係の構築が必要不可欠です。過去の惨劇を教訓とし、未来の世代に平和な世界を残すために、あなたたちが果たすべき役割は非常に大きいのです。広島と長崎の被爆者たちの声に耳を傾け、その苦しみを忘れずに、核廃絶への道を進んでください。

過去の惨劇を教訓とし、核なき未来を目指すことは、人類全体の責任です。核廃絶への道のりは決して平坦ではありませんが、国家間の対話と協力、市民社会の積極的な関与によって、必ずや実現できるはずです。私たちは今こそ、核なき未来を目指して立ち上がり、その実現に向けて行動する時です。リーダー各位がこのメッセージに耳を傾け、核兵器廃絶のための具体的な行動を取ることを強く望みます。

最後に、核廃絶への願いを表現した詩を捧げます。この詩が、核兵器の破壊力と私たちが目指すべき未来について、再認識させるものであることを願います。

この一発は無垢な命を奪う一発
この一発は街を瓦礫に変える一発
この一発は地上の家族を消し去る一発

この一発は未来を破壊する一発
この一発は愛を冷たい灰に変える一発
この一発は全ての夢を砕く一発

この一発は涙を絶え間なく流す一発
この一発は苦しみを永遠に刻む一発
この一発は悲しみの連鎖を生む一発
この一発は平和を遠ざける一発

だからこそ、核は許さない
だからこそ、核は必要ない
だからこそ、核を消し去りたい
だからこそ、核を廃絶したい

この一発が二度と撃たれぬよう
この一発が歴史に残らぬよう
私たちは誓う、核なき未来を
私たちは願う、常しえの平和を